

2017年9月1日

第280号

藤 沢

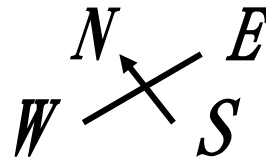
エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議

(略称) 藤沢エコネット

主
な
記
事

- ・福島っ子リフレッシュ 2017 夏
- ・未来を見てみれば
- ・戦争と女性の人権 ・放射能測定値
- ・ジェット気流発見にまつわる話し



<http://econet2015.sakura.ne.jp>

事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

FAX 0466-87-4922

豪雨への備えを見直そう！！

マンホールから水が噴き出し、冠水した道路では車が立ち往生、川の水位が急上昇、こんな激しい雨が各地で相次いでいる。藤沢市では、8/1 の大雨で最大時間雨量は藤沢地域で 67.5mm/時、長後地域で 40.5mm/時、辻堂地域で 51.0mm/時であった。15:40 には引地川の石川橋の水位が 4.1m に達し、氾濫危険水位を超えた。氾濫に備え、長後、湘南台、六会、大庭、善行地域の一部約 3 万 8000 世帯、9 万 3000 人に避難勧告が発令された。人的被害はなく、道路冠水 16 ヶ所、江ノ電が一時不通となり、一部に車両水没、床上・床下浸水があった。

過去 40 年の統計で、50mm/時を超える雨の回数が増えている。現在の治水計画では 50mm/時を超える雨は 50 年に一度の想定だが、欧米・中国では、千年～1 万年に一度の洪水に対応している。地球温暖化の影響がここまで進行したことから治水計画を根本的に見直すことが必要である。

かつて境川の決壊で俣野地区～藤沢駅周辺が浸水し、地下にあった変電所が被災、大規模な停電になった。この教訓からイトーヨーカドーを始め、各ビルの変電設備は地下ではなく、2 階以上に置くことになった。また、雨水枟や道路の浸透性舗装などにより雨がダイレクトに河川に流入することを防ぐ対策が市議会で議論されたことがあった。さらに引地川下流域では、逆流した水が新設間もない湘洋中学校体育館 2 階トイレから噴き出した。その結果、川岸の下水開口部に逆流防止ダンパーの設置、上流部で遊水地の建設が行われた。これらは、鹿島建設や県土木部の技術者など専門家の意見が反映された結果であった。

50mm/時を越える大雨が降れば下流域の藤沢市では、河川の氾濫は避けられず、地球温暖化の進行を止めることができれば、今夏の事態は今後も頻発すると予想される。

そのために当面の対策としては、雨量と河川水位の観測を充実させ、早めの避難をする。さらに、抜本的な対策は大雨が降っても被害を出さない「まちづくり」、すなわち、都市計画の見直しが必要である。

特に、境川とその支流は「特定都市河川浸水被害対策法」での特定都市河川に指定されている。2 級河川は県の管轄なので、河川の動態把握は県の役割である。その結果を治水と河川環境を両立させた都市計画づくりに反映させるには、県と流域自治体の連携が必要で市内を流れる境川・引地川については「2 河川協議会」が存在する。しかし、命と暮らしに直結する治水問題は、自治体任せにするのではなく、住民参加が不可欠ではないか。気象・河川工学・都市計画などの研究者、民間の土木技術専門家など住民参加による地域に取ってより適切な治水対策、河川環境づくりと都市計画の見直しが求められている。先ずは、住民から勉強会を始めてはどうだろうか。(宮地俊作)



引地川、8/2 の水位 (太平橋から)

未来を見てみれば

今年の7月初めにはもう真夏の太陽が湘南に照り付けて、雨雲の影は見えなかったのですが、一方、九州北部豪雨は信じがたいほどの災害をもたらし、日本の大部分が豪雨や強風に襲われました。水害も多くの地域で発生し、人々の生活を奪いました。地球環境の変化が招いた豪雨ともいえますし、人間のせいで起こった温暖化のせいかもしれません。

私たちが取り組んでいる環境もどんな難問が待っているのか不明なのです。

さて30年、50年後の日本に確実にやってくるのが人口減少の時代です。これは天気予報とは違って、現在の人口の比率や出生率、死亡率など実際にある数値を分析して推計します。

現在1億2千700万人の人口が、2050年には1億人を下まわることになります。

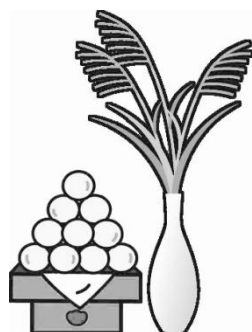
現在の若い世代が60歳代になりますが、経済規模も収縮し、住宅も20%は必要なくなり、農業も漁業も、そしてすべての産業も同じでしょう。したがって道路も鉄道も移動する人間が20%減るので、今と同じ必要はありません。働く者も減り生産力も低下しますが、消費も減少するので困ることはありません。

人口問題は国によって増減が異なるので厄介です。人口が増える国もありますが、減るわが国はこうした国々とどうお付き合いすればよいのか。日本人は価値観も変化しそれぞれの人生観も幸福感も変わります。

豪雨は環境問題の一環であり、当面、対策に努力が必要ですが、やり方は日本人にも方法が見えていることが多いと思います。

しかし、いかに様々な苦難に対して、それなりの対応をしてきた日本人も、人口問題には苦勞しそうです。

後期高齢者の私は年金生活に満足していきいますが、いま若い皆さまにはこれからが勝負です。未来を見据えて新しい世界を創造してほしいと願っています。（藤岡 進）



戦争と人権—朝鮮人強制連行

茅ヶ崎で上映される「抗い」のパンフレットを見て、作者の林えいだいの出身地が、福岡県田川郡香春町とあった。地下は筑豊炭鉱、うへは石灰山香春岳連峰とセメント工場だけの企業城下町だ。2歳8か月で乳母と両親、私と姉5人で引越してきた所だ。最も多感な少年時代の



6年間だった。石炭は黒いダイヤと言われ、鉄、セメントと共に戦争を続ける上で不可欠な軍需産業の柱だった。日本の国策で、企業の労務担当者は朝鮮

半島へ安い労働力を求めに、酒池肉林の恩典出張した。当時、半島は極めて貧しく、樹の芽、雑草が生える季節を待ちこがれている有様。私の父も朝鮮半島に浅野セメント本社からの指示で出張した。人道主義で真面目なだけがとりえの父はウソが言えず、人は集まらず、あげくスリにあい、借金背負って帰ってきた。それに引きかえ炭鉱では、ウソを平気でつける半島の同胞を手先に使い、ひとりいくらの手数料を払い、生活苦の朝鮮人を大量に集め、釜山港で日本人に引き渡していた。毎月2円は企業から直接親元に送金し、残り2円は日本で楽に暮らせる給料を毎月手渡しする。2年経ったら、貯金を持って帰国することができる。——以上は国策とは言え、国家的詐欺に等しい。親元への送金は全員最初の1回のみ。ノルマが達成できない場合は、坑内で何日も眠らず働かされるのが常だった。給料は脱走できないように会社で預かった。また2年の期間すら守られることがなかったことが後で判った。なかでも忌まわしいはなしは、従軍慰安婦を想像させるような全羅南道順郡道岩面に「処女会」結成会の写真記録まで残っている。

最近新聞で戦争中の徴用工関連の記事が話題になっている。国家間のことは、解決済みと歴代政権は主張しているが、リンチで殺されたり、給料未払い、人権関係は、個人的な問題で、国際問題に発展する恐れがある。——日本は永久に責任を取り続けなければならない大問題だ。

《参考資料》林えいだい「精算されない昭和」「強制連行—強制労働」「抗い」 帯木蓬生「三たびの海峡」

*以上は、私の3, 4歳の記憶と、両親、朝鮮の遊び仲間等から聞いたもので、事実が多少入り混じっていることを御了承ください。一つづー （国枝 健）

今年の夏も福島から来ました

「2017年夏の福島っ子リフレッシュ in 湘南」が行われ、7/24～27、3泊4日で無事終わることができました。まずは第11回目の今回も皆様方の温かいご支援により終えたことに感謝申し上げます。

年に2回の保養は、資金面では大変苦しいのですが、福島の子どもたちを思うと、やはり続けなければとの思いがスタッフの一丸となった結果かと思えます。

今回は福島市、相馬市、郡山市等にわたり、親子28人（10家族）が日本大学宿舎で泊まり、遊ぶことができました。その内、一度は来たことのある家族が8家族あり、この保養が気に入っていただけていると思います。



歓迎会の様子

24日は福島を出発し6時間かけてバスで到着し一息してから夕食を兼ねた歓迎会で楽しみました。

2日目は議員さん2人のお世話で、いすゞ自動車がピカピカのバスを無料で提供して下さい、「いすゞプラザ」で自動車の展示、製造工程の見学、大きなジオラマは小さな車が街を走る様子、ライトをつけて夜も走るなど、「運ぶ」を支えている所は見ごたえありました。午後は、辻堂海浜公園のプールで遊び、親子でのプール遊びは楽しかったようです。

3日目は雨模様で、自由行動ですが、江ノ島水族館へ、鎌倉へ、横浜へ出かけた家族もいましたが、

日大で過ごした方は、教授のお世話で「シカの皮細工」のマグネットづくりに挑戦、思い思いの絵の作品ができて記念になりました。午後は、恒例となった凧づくり、作った凧を揚げて走り回り、小雨の中でも元気でした。プレゼントされたケン玉で遊び、検定もあり4人が合格賞状をもらいました。



手づくりタコできたよ！

夜の交流会は、子どもたちは別室で魚釣りゲームやスイカ割をして大喜び。その間、保護者は福島での生活のことや、困っていることなどを出し合い、スタッフからも意見を述べることができ大変有意義でした。

話の中では・事故当時は部屋の窓辺にも近づかず室内での生活で子どもに笑顔が見られなかった。・保養に出かけることを周りには知らせないでこっそりと。・庭にイノシシやキジなどが来ている。・山があり、除染しても戻ってしまい、木を全部伐採してもらった。・甲状腺検査でのう胞が大きくなったり、増えたりして、医師はガンだと診断するまで何もしてくれない。不安な気持ちともどかしさでいっぱい。などなど話はお開きになっても夢中になっていました。

今回は藤沢市内で4日間過ごしたためスタッフとしても今までになく、負担が少なかった保養でした。

アンケートでは「満足した」が全員。「また来たい」との回答で、何よりスタッフの気づかいに感謝の思いが伝わり、やりがいがあったと感じました。

（福島の子どもたちとともに・湘南の会 荒井）



魚釣りゲームに夢中！

ジェット気流発見にまつわる話 (シリーズ13)風船爆弾計画の実態

風船爆弾は、第2次世界大戦が敗北にいたる過程で、最後の冬に計画された断末魔の作戦であった。「風船爆弾」という名を聞けば、小規模な作戦と思われがちだが、その実態は想像と大きく異なっていた。極めて綿密に計画され、大量の人員と物資を投入し、季節限定ではあったが大規模で期待を担って取り組まれた作戦だった。

風船爆弾の素材である和紙の品質管理（当初海軍は風船の材質にゴムを使ったが、製作時のコストの問題と重量が増す点で不利な部分が多く、後に陸軍が主導して和紙を素材に使用し、これが本命となり大量生産された）、接着剤としてのコンニャク糊の製法、表面のコーティング技術、ガス漏れを検知するシステムの構築、放球を悟られないための情報管理（発射基地は人里離れた太平洋沿岸部に複数箇所設けられたが、近隣の住民に知られないように作戦を実行する必要があった）など。

また最適な気象条件で風船爆弾を放球するための気象予報やその方法、どれを取っても高度な計画性と作業工程の厳格な管理のもとで実現された。

しかし、この作戦そのものが成功したか否かは別なのだが。

(つづく)

林 陽生（NPO シティ・ウォッチ・スクエア理事長）



放射能測定値（市民計測）

(HORIBA Radi) 単位 (μ Sv/h)

8/20	ライフタウン東急屋上	0.040
8/20	ライフタウン 東急 1F エレベーター前	0.032
9/ 3	テラスモール湘南1F前庭	0.044
〃	1F入口	0.059
〃	2F エスカレーター前	0.050
〃	3F エスカレーター前	0.035

ECONET INFORMATION

▲安倍改憲を許さない

9月8日（金）18:30-20:30

藤沢第1展示ホール 参加費500円

講師 渡辺 治さん（一橋大学名誉教授）

主催 ふじさわ・9条の会

▲星と波と風と スライドとトーク

9月9日（土）17:00-18:50

フジサワ名店ビル 6階Aホール 参加費 800円

主催 パパラギ海と自然の教室 26-0088

▲再生可能エネルギーの光と影

講師 山下紀明氏（環境エネルギー政策研究所）

9月30日（土） 参加費 1000円

ミナパーク302号室 申込み fax0466-81-4853

Eメール fujisawasunenergy@gmail.com

主催 （一社）ふじさわサンエナジー

▲さよなら原発集会

9/18(月祝)12:30- 代々木公園B地区

ステージで 講演 うた トーク デモ

▲大地震、怖い？ 正しく学んで備えるのが一番

講師：浅見茂雄さん（三浦半島活断層調査会顧問）

10月8日（日）14:00-市民会館第2展示ホール

参加費500円 問い合わせ 0466-82-2036

主催 湘南のなぎさを守る藤沢市民の会

協賛 藤沢エコネット 湘南学習会議

▲藤沢エコネットから

◆浜岡原子力発電所見学会

10/7（土）チラシ見てお申込みを！

貸切バス9時発車 藤沢駅北口ビッグカメラ北側集合

先着順 参加費5000円

◆会員募集二年会費・購読料→2000円

◆事務局会議9月8日（金）14:00～

市民活動プラザむつあい

《編集後記》8月は前半雨つづき、後半暑くなったが、間もなく台風到来。海面温度上昇による多雨現象というが、地球温暖化が原因らしい。CO2を出さない原発は放射能と処理できない核ゴミを出す。世界一危険な浜岡原発の実態を10月に見学し、現地の人と交流する予定。「脱原発」で様々な市民が手をつなぎ、希望ある未来を。(A)